

## 平成17年度 事業状況報告書

財団法人 地球システム総合研究所

地球システム科学・工学に関連する科学技術は地球が関係するすべての分野において必要不可欠なものであり、限りある地球の安定的有効利用と社会の持続的発展を達成するためには関連科学技術の高度化とその有効利用が各分野から強く要請されている。その要請に答えるために、関連技術の更なる研究開発とその有効利用を積極的に推進することが喫緊の課題である。

そこで、当財団法人は次に示す事項に重点を置き、研究的事業および研究成果の実用化を推進し、その普及に努めてきた。

- ◎ 地下資源開発および建設・防災・環境保全などに関連する地質・地盤の調査と評価のための、探査工学・地質工学・地盤工学・岩盤工学に関する基礎的・応用的研究の推進。
- ◎ 現場から寄せられる地下構造解明、地質・地盤の安定性の診断や防災対策などに関する諸問題を解決するための実際的な研究と助言。
- ◎ 開発された新技術の実用化の推進。
- ◎ 研究会・講習会などの開催。

平成17年度は、公益的活動のさらなる活性化のために、各部門研究会が中心となって活動を展開し、地球システム工学の基幹分野である地質工学・地盤工学・岩盤工学・防災工学などに関する研究活動を活発に行なった。さらに、これまでの研究成果を踏まえ、地盤工学に関する研究成果の普及とその有効利用を促進するために、講演会および研究会を開催するとともに、国際ワークショップや国際セミナーの開催準備を行なった。また、関連課題の国際シンポジウムの協賛、当財団法人のホームページの充実を通して関連科学技術の啓蒙普及に尽力した。以下に本年度の活動状況を示す。

### [1] 理事会、評議員会

「平成17年度 第1回定例理事会」

平成17年6月16日、14:00～16:00、京大会館220号室、出席理事：6名、出席監事：1名。

「平成17年度 定例評議員会」

平成18年3月14日、15:00～17:00、京大会館103号室、出席評議員：15名、出席理事：2名、出席監事：1名。

「平成17年度 第2回定例理事会」

平成18年3月23日、14:00～17:00、京大会館220号室、出席理事：6名、出席監事：1名。

### [2] 部門研究会活動

現在当財団法人内には次に示す7部門研究会が設置されており、それぞれの部門研究

会が活発な研究活動を実施するとともに、講演会および研究会を開催した。

- 1) 地球統計学研究会、 2) 岩盤工学研究会、 3) 写真計測研究会、
- 4) 京都地盤研究会、 5) 岩盤水理研究会、 6) ジオリスク研究会、
- 7) 東南アジア岩盤研究会。

### [3] 事業

#### 1) 調査受託

調査受託は無かった。

#### 2) 研究受託

10件の研究を受託し、自主的及び公益的研究を実施した。

#### 3) 研究会・講演会・講習会

##### 1. 主催

今年度は部門研究会の一つである京都地盤研究会が下記の講演会・研究会を開催した。

##### ①「京都地盤研究会 第10回 特別講演会」

日時：平成17年5月6日、場所：京大会館（京都）101号室、参加者数：62名。

講演題目：「津波の恐ろしさーそのメカニズムと威力」

講演者：京都大学防災研究所所長 教授 河田 恵昭。

##### ②「京都地盤研究会 第27回 研究会」

日時：平成17年6月13日、場所：京大会館（京都）101号室、参加者数：72名。

基調報告「昨年度の災害を振り返って」

国土交通省近畿地方整備局企画部防災対策官 中村 則之

「平成16年7月福井豪雨における地盤災害の特徴」

福井大学工学部建築建設工学科教授 荒井 克彦

「最近の斜面災害の特徴ー新潟県中越地震を主にして」

京都大学防災研究所教授 斜面災害研究センター長 佐々 恭二

##### ③「京都地盤研究会 第28回研究会」

日時：平成17年8月29日、場所：京大会館（京都）101号室、参加者数：53名。

「土石流の機構およびその対策を考える」

京都大学名誉教授、(財)防災研究協会 理事・工博 高橋 保

「最新の三次元画像処理技術ー防災に活かす先端技術」

京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻 助教授 西山 哲

「地震火災から木造文化都市を守る環境防災水利の整備手法」

京都大学大学院地球環境学堂地球親和技術学廊 助教授 大窪 健之

##### ④「京都地盤研究会 第29回研究会」

日時：平成17年12月2日、場所：ぱるるプラザ京都 研修室5、参加者数：53名。

「大地震の発生と水ー地震の発生機構はどこまでわかったか？」

京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻 教授 嶋本 利彦

「岩盤崩壊の考え方・メカニズム－解析から対策まで」

(株)アーステック 東洋代表取締役 技術士・工博 中井 卓巳

「古代の土木技術を考える－高松塚古墳の現在・そして将来」

京都大学防災研究所 助教授 三村 衛

⑤「京都地盤研究会 第30回研究会」

日時：平成18年3月1日、場所：京大会館101号室、参加者数：56名

「これからの地震を考える－地震考古学の立場から」

独立行政法人産業技術総合研究所 主任研究員

京都大学防災研究所 客員教授 寒川 旭

「津波の研究－日本人の大いなる貢献と今後の展開」

京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 講師 三ヶ田 均

「平成16年台風23号の被害と災害復旧事業について」

京都府土木建築部治水総括室 砂防室副室長 奈良 幸男

2. 共催

なし。

3. 協賛

- ①「The 10th International Symposium on Recent Advances in Exploration Geophysics」、  
March 30-31, 2006, Jurassic Hall, KIGAM, Daejeon, Korea.

以上のように本年度は自主研究及び受託研究を実施するとともに、講演会および研究会を開催して、地球システム工学の中心的な学問分野である地質工学・地盤工学・岩盤工学に関する研究および啓蒙・普及活動を積極的に行ない、関連する科学技術の発展に寄与するとともに有意義な多くの研究成果が得られた。

以上